

ミャンマーへ広がる寄付

「少額でも市民の力に」

クーデターを起こしたミャンマー国軍による弾圧に苦しむ市民を助けるため、インターネットを通じて寄付を募るクラウドファンディング（CF）が続々と立ち上がっている。現地では寄付金による食料配布も始まった。主催者らは「たとえ少額でもミャンマー市民への力強い応援になる」と協力を呼びかけている。

ネット活用送金ルート確保

ミャンマーが専門の今村真央・山形大教授や根本敬・上智大教授、NGO「日本ビルマ救援センター」の中尾恵子代表ら有志が5日、CF「緊急支援・クーデター下のミャンマー市民へ医療・食料支援を。」を立ち上げた。寄付金は開始25時間で目標の500万円



ミャンマー在住の田村啓さんら有志は生活に苦しむ地元住民に食料品を届けている＝3月27日、ヤンゴン、田村さん提供（画像の一部を加工しています）

を超え、14日夕時点で2106人から計約19334万円が集まった。

「少しでも力になりたくて」「命を大切に粘り強く闘って」。CFの窓口には2千件を超える応援メッセージが寄せられている。

寄付金は国軍側の実弾発射で負傷したデモ参加者の治療費や、職務を放棄する「不服従運動」に参加する公務員の生活費、弾圧による避難民の支援費などに充てられる予定だ。

きっかけは今村教授の呼びかけだった。現地の友人から「死傷者がどんどん増えている。医療費が足りない」との相談を受け、CFの立ち上げを急いだ。国境地帯の研究で培った人脈を生かし、寄付金をタイの慈善団体を通じてミャンマーの複数の市民団体に渡す送

金ルートを確保した。今村教授は「かつての弾圧時にはなかったネットを味方に付け、民主主義を求めるミャンマーの人々を支えたい」と話す。

今村教授がお手本にしたのは、ヤンゴンに住む会社経営の田村啓さん（36）が3月に始めたCFだった。田村さんが「善意を束ねるような受け皿を」と願ったCFには、約4週間の期間中に1434人から計1557万円が集まった。

田村さんは地元NGOと連携し、収入減や物価上昇にあえぐヤンゴン近郊の貧困層に、1世帯あたり2500円分の魚の缶詰や米などを配布。既に配布先は2400世帯を超えた。

田村さんは「少額でもミャンマーの人々を励ます力になる」と意気込む。

根本教授は「弾圧の歯止めになり得ていない国際社会と各国政府に、ミャンマー市民は失望を強めている。そんな今だからこそ、市民が動いて連帯し、応援の気持ちを伝える意味が大きい」と指摘する。

（バンコク＝東京真知）